

会議名 (審議会等名)	川西市社会福祉審議会児童育成専門部会		
事務局 (担当課)	こども部 子育て室 子育て支援課 内線(2683)		
開催日時	平成21年12月25日(金)14時00分～16時10分		
開催場所	川西市役所4階庁議室		
出席者	委員 (敬称略)	西尾部会長、喜谷職務代理者、古谷委員、若松委員、渋谷委員、南委員、林委員、松本委員、下山委員、橋本委員、森友委員、石橋委員、今井委員、種池委員 計14人	
	事務局	こども部後藤部長、子育て室藪野室長、子育て支援課田淵課長、保育課塚北課長、同課山元主幹、青少年支援課小倉課長、子育て支援課中西課長補佐	
	その他	障害福祉課荒崎課長、健康づくり室木下主幹、学校教育室仲室長、教育情報センター木下所長	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1. 報告 (1)川西市次世代育成支援対策行動計画(前期計画)の平成20年度事業進捗状況について (2)川西市次世代育成支援に関するアンケート調査結果について 2. 議題 (1)川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)策定の趣旨・経緯について (2)川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)素案について (3)川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)策定のスケジュールについて 3. その他 川西市保育所整備計画及び認可保育所整備法人の募集について		
会議結果	詳細は審議経過のとおり		

審 議 経 過

	<p>1. 開会</p> <p>2. 辞令交付</p> <p>3. こども部長あいさつ 委員紹介 部会長あいさつ</p> <p>4. 議事</p>
部会長	本日の議事に入る。報告第1の川西市次世代育成支援対策行動計画の平成20年度事業進捗状況について、事務局より説明願いたい。
事務局	(川西市次世代育成支援対策行動計画について説明)・・別紙資料1 質疑なし
部会長	報告第2の川西市次世代育成に関するアンケート調査結果について、事務局より説明願いたい。
事務局	(川西市次世代育成支援に関するアンケート調査結果について説明)・・別紙資料2
部会長	調査結果をまとめた事務局として印象的であったこと、今後の施策の展開において着目すべきと感じたことを説明願いたい。
事務局	子育てに関して不安感や負担感を感じている人の割合が、感じていない人の割合を上回っているという調査結果が出ている。一方で子育てに関する相談先として、友人や知人といった身近な相談者への割合が前回調査に比べて下がっていることなどから、相談体制の充実が求められているのではないかと感じた。
部会長	前回調査に比べて、身近な相談者への相談割合が下がった理由は何と考えるか。
事務局	幼稚園や学校等も含めて地域社会の関係が希薄化している。相談に限らず、気軽に話をする場としても連携が弱くなっていることが、今回の調査結果に限らず、現場での実感としてある。
委員	身近な相談者への相談割合が下がった理由の一つとして、インターネットの普及が大きく影響しているのではないかとと思われる。最近のお母さんたちの傾向として、まずはインターネットで調べ、多くがそこで解決に至っているのではないかと。
委員	児童センターで相談を受けているが、インターネットで調べた後に相談に

	<p>来る人が増えている。インターネットに相談を書き込むと、顔や名前も知らない多くの人が悩みに答えてくれ、また、慰めてもらえることで、そこで納得する人も多いという印象を持っている。</p>
部会長	<p>インターネットでの相談では、知識は満たされるかもしれないが、人格的な交流による満足感は得られるのか。人とのつながりが薄く、孤独感を癒されることにつながらないのではないか。</p>
委員	<p>メールをやり取りするようにやさしく返信され、癒されるケースもあると思う。煩わしさもなく、その場で終われる気安さが、若い世代に受け入れられているものとする。</p>
委員	<p>虐待ケースの共通点として、母親の孤立が指摘されているが、相談者がいないといった孤立感を和らげる手段としてインターネットの相談は有効であるか。</p>
委員	<p>軽易な相談はネットを利用し、大きな問題の場合は直接相談したりと、両方をうまく使い分けていることが、アンケート結果にも現れているように思う。</p>
部会長	<p>保育所や幼稚園で子どもを預かる立場からの印象はどうか。</p>
委員	<p>例えば園庭開放の場面でも、すぐに打ち解けるグループと、何度参加しても孤立してしまうグループに両極化していると感じるが、本市では園庭開放や子育てサークルの広がりが見られるので、幼稚園や保育所といった枠にとらわれずに、相談する場は広がっていると感じている。</p>
委員	<p>小学校の高学年になると、先生自身が忙しくて子育てに関する相談をしにくい印象がある。また、安心して遊べる場が減っていて、子ども同士で遊びに行かせることが不安である。小さな公園ではボール遊びが禁止されていたり、小学校でも校庭を開放しているものの、野球やサッカーといったクラブが使用しているなど、とくに高学年になると遊びたいという思いがあっても制約が多いという声を聞く。</p>
部会長	<p>これらの意見を今後に活かしていただきたい。 続いて、議題第1の川西市次世代育成支援対策行動計画（後期計画）策定の趣旨・経緯等について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>（川西市次世代育成支援対策行動計画（後期計画）策定の趣旨・経緯等について説明）…別紙資料3 質疑なし</p>
部会長	<p>議題第2の川西市次世代育成支援対策行動計画・後期計画（素案）について</p>

	て、事務局より説明願いたい。
事務局	(川西市次世代育成支援対策行動計画・後期計画(素案)について説明)・・別紙資料4
部会長	家庭児童相談室の相談状況では、虐待に関する相談件数が年々増加しているが、その要因と対応はどうなっているか。
事務局	平成16年度に児童福祉法が改正され、第一義の相談窓口が県から市となったことにより相談が増加している。対応としては、相談員を2名から3名に体制強化し、訪問して相談を受けるなど、積極的できめ細やかな対応に努めている。
委員	ひとり親家庭への支援の中で、母子家庭のみが対象になっている事業が多い。離婚が増える中で、父親が子どもを引き取るケースが増えている。子育てで早く帰宅するために正社員でなくなるなど、父子家庭も母子家庭と同様に経済的に厳しい状況にある。父子家庭への支援はどうなっているのか。
事務局	母子家庭が対象であった児童扶養手当が平成22年度から父子家庭も対象になるといった国の動きがある。また、本市では、これまでから父子医療制度のほか、保育所の優先入所や相談も受け付けている。
委員	父子家庭も対象となること分かる表現としていただきたい。
部会長	公営住宅法の改正により、公営住宅の新設ができなくなったが、相変わらず住宅に困っている人は多い状況にある。老朽化対策として建て替えをする場合は、高層化により家賃が高くなり、結果的に低所得者が住めなくなることがないように留意願いたい。
委員	職に就けず住むところにも困る保護者が増えている。また、就労していても子どもが病気になったときの対応等により、仕事と子育てとの両立が難しく、収入が減るなど経済的な不安を抱える保護者が増えている。パソコン講座などの就労支援事業の実施や、市内企業で就労枠を確保することなどができればと考える。
部会長	自治体の枠を超えた課題ではあるが、市民生活に直結した課題ということで検討いただきたい。 続いて、議題第3の川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)策定のスケジュールについて、事務局より説明願いたい。
事務局	(川西市次世代育成支援対策行動計画(後期計画)策定のスケジュールについて説明)・・別紙資料5 質疑なし

部会長	川西市保育所整備計画と認可保育所整備法人の募集について、事務局より説明願いたい。
事務局	(川西市保育所整備計画及び認可保育所整備法人の募集について説明)・・別紙資料 6
部会長	質問をお願いします。
委員	多田中学校区・緑台中学校区の民間保育所整備法人の公募について、用地に関する制約の説明を願う。
事務局	多田中学校区・緑台中学校区の民間保育所整備の応募にあたっては、応募法人の所有地または、法人が貸与されている土地での整備となるが、安定的な保育所の運営といった観点から、貸与されている土地については抵当権の設定がないといった要件を付している。
部会長	これで、第 1 回川西市社会福祉審議会児童育成専門部会を終了する。

※別紙資料は、市政情報コーナーに備え付けています。